文京学院大学人間学部研究紀要 Vol. 20, pp. 63 ～ 69, 2019. 3

子ども向けアニメ番組におけるジェンダー規範の揺らぎ
―『HUG っと！プリキュア』の男性像をもとに―

登丸　あすか*

本研究は，女の子向けテレビアニメ番組で提示される「プリキュア」シリーズ，なかでも『HUG っと！プリキュア』を対象にジェンダーの視点で，映像分析を行ったものである．「魔法少女」とされる女の子向けアニメでは，主人公の女の子たちにケアやマザーリングの役割が求められ，「美」の重要性が提示されてきた．本研究の結果から，ここで扱った『HUG っと！プリキュア』においても同様の傾向が確認された．さらに，男性の登場人物に着目し，男性のジェンダー規範の変化と女性のジェンダー規範に対する影響を検討している．

Key words：アニメ番組，ジェンダー規範，プリキュアシリーズ

1 子どものテレビ視聴

子どもの頃にアニメの主人公に憧れて，グッズを買ってもらったり，真似をして遊んだりした経験を持つ人は多いのではないだろうか．実際，大学の授業などで「子どもの頃にどのようなメディアと接したか」を問うと，多くの学生は 3 歳ごろから NHK の教育番組を初め，幼児向けアニメを家族と見たり，クリスマスに好きなアニメのグッズをプレゼントしてもらったりしたなどの体験談を語る．家庭内で毎日視聴するテレビアニメ番組の内容は幼少期の子どもにとって重要な娯楽である一方，その内容，とりわけ主人公の発言や行動は大きな影響を与えており，アニメ番組の中で提示される問題解決の方法等から子どもは多くのを学んでいると考えられる．

子どものテレビ視聴に関して，NHK 放送文化研究所による調査を見ると，未就学児（2 歳から 5・6 歳まで）の平均視聴時間は平日 1 当たりの時間で 2015 年は 1 時間 47 分，2016 年と 2017 年は同じく 1 時間 40 分とある．長期的にはテレビの視聴時間は減少傾向であるものの，テレビ視聴以外に録画番組や DVD を視聴する時間は 1 日当たり 55 分（2017 年）である．さらに，インターネット動画の視聴に関しては視聴する幼児の割合は 2015 年で 31％，2016 年で 38％，2017 年で 47％と急速に増えていることがわかる．テレビのアニメ番組は DVD で販売，レンタルされており，リアルタイムの視聴率が減少傾向であったとしてもその影響力が小さくなったとは一概に言えない．さらに，オンデマンドでテレビのアニメ番組が視聴できたり，アニメ番組のオープニングやエンディング曲がインターネットで流されていたりと，インターネット動画による影響も考慮する必要がある．子ども向けのアニメ番組は放送時期に合わせた幼児誌での連載，関連グッズの販売，映画の放映，遊園地など娯楽施設でのキッズショーなど多種多様な展開がなされ，メディアミックス

＊人間学部コミュニケーション社会学科

の状況にある．

2 アニメ番組とジェンダー

前述のNHK放送文化研究所の調査によると，2，3歳児については『おかあさんといっしょ』や『いないいないばぁ！』などが視聴率30％を超えるなどEテレ（NHK）の幼児向け番組が圧倒的な支持を得ている．一方で，4，5歳児になるとEテレの番組とともにアニメ番組，例えば，『サザエさん』『ちびまる子ちゃん』『ドラえもん』『クレヨンしんちゃん』などが視聴されるようになる（星・渡辺 2017）．本稿ではこうした幼児向けアニメ番組の中でも女の子向けとされているプリキュアシリーズのうち2018年2月より放送が開始された『HUGっと！プリキュア』を取り上げたい．プリキュアシリーズは2004年2月より放送を開始し，2018年で15周年目を迎えている．毎年2月に新たなシリーズが始まり，1月に終了する．シリーズごとにほぼ毎回主人公が変更されるが，主人公の女の子たちがプリキュアという伝説の戦士に変身し，敵を倒すという物語の基本的な構造は共通している．ビデオリサーチ社によれば，週間視聴ランキングのアニメ部門の中で女の子向けとしては唯一トップ10[1]に入っており，女の子の間では人気の高い番組と言えるだろう．

女の子向けアニメにおいては，登場人物や設定，物語の構成に関して，そのジェンダーステレオタイプなあり方が問われてきた．例えば，斎藤（2001）はアニメや特撮といった子ども向け番組が「軍事大国としての『男の子の国』」と「恋愛立国としての『女の子の国』として明確に性別で分けられていることを指摘し，「男の中に女がひとり」という紅一点で提示される女性像を批判的に検討している．また若桑（2003）は『シンデレラ』や『白雪姫』などのディズニープリンセスの初期の作品を取り上げながら，繰り返し提示される受動的な女性としてのプリンセス像の問題を論じている．

さらに須川は『魔法使いサリー』（1966–1968）や『ひみつのアッコちゃん』（1969–1970）など初期の「魔法少女」から『美少女戦士セーラームーン』（1992–1993）に始まる「セーラームーンシリーズ」，『おジャ魔女どれみ』（1999–2000）など歴代の「魔法少女」を取り上げ，「魔法少女」のヒーローとしての要素や女性の役割を検討している．そこで須川によれば，「魔法少女」の主人公たちにケアとマザーリングが女性の規範的なジェンダー役割として提示されており，玩具を通じてオーディエンスにもマザーリングを実践する機会が提供されていると指摘されている（須川　2003：240–241，248–249）．また，変身シーンの分析により，メイクアップ，ドレスアップが女性にとってのパワーアップとして示されていると述べる（同：238）．

「魔法少女」のジャンルにおいては女性主人公を取り上げ，さまざまな分析が行われてきた一方，異性の存在についても言及されている．「セーラームーン」シリーズにおいては，タキシード仮面が主人公の月野うさぎの恋人として登場する．これまでの子ども向けアニメ番組では基本的に異性愛主義が貫かれており，斎藤は，女の子向けのジャンルにおいて主人公の行動原理は異性であり，そのイデオロギーはロマンチック・ラブであると述べている（斎藤 2001：34）．タキシード仮面と月野うさぎというカップルもそれに合致している．

「プリキュア」シリーズでは，主人公の女の子が中学2年生という設定であり，過去の作品において男子学生に告白するシーンや男性の外見に主人公が惹かれるというシーンも提示されてきた．しかし，本格的な交際という場面は見られず，それよりもプリキュアの仲間と協力して敵を倒すことに主眼が置かれる．プリキュアは2人組あるいは数人の女性同士でチームを組み，協力して敵を倒すという女性同士のホモソーシャルな関係が構築されている．しかし，男性が全く関わらないわけではない．本稿で取り上げる『HUGっと！プリキュア』においても，ストーリーの構成上重要な役割を担う男性が複数登場するのである．それは，敵として登場するのではなく，女性の主人公たちのサポート役であったり，また当初はプリキュアたちと衝突するも次第にプリキュアの重要性を認め，支える存在として提示される．プリキュアシリーズにおいてこれら男性の存在はどのような影響を与えるのか．本稿では女の子向けアニメ

表 1『HUG っと！プリキュア』の主な登場人物

キュアエール	野乃はな	中学 2 年生
キュアアンジュ	薬師寺さあや	中学 2 年生
キュアエトワール	耀木ほまれ	中学 2 年生
キュアアムール	愛埼えみる	小学 6 年生
キュアマシェリ	ルールー・アムール	元クライアス社所属のアンドロイド
はぐたん	―	乳児

番組『HUG っと！プリキュア』を題材に，主人公のプリキュアたちにとっての男性登場人物とはどのような存在であるかを検討したい．そうすることで，恋愛至上主義と言われる女の子向けテレビアニメ番組において，恋愛対象とは異なる男性像について検討できるのではないかと考える．

3『HUG っと！プリキュア』の分析

3-1　分析方法

分析方法としてはまず，2004 年にスタートした『ふたりはプリキュア』から 2018 年現在放送されている『HUG っと！プリキュア』[2] までの全シリーズの主人公の設定や物語を構成する要素を整理し検討した．さらに，本稿では主人公のプリキュアたちと異性の関係性を検証するため，主人公であるプリキュアたちに次いで重要な男性キャラクターとして登場するハリハム・ハリー（ハムスターとして登場するが必要に応じて人間の男性に変身），若宮アンリ，愛崎正人の 3 人が登場する話を取り上げて，映像と音声を書き出し，その構成を分析した．

3-2『HUG っと！プリキュア』の概要とテーマ

『HUG っと！プリキュア』では 5 人のプリキュアがクライアス社という悪の組織と戦うという設定である．悪の組織はその名の通り会社組織となっており，ジョージ・クライという名の社長をトップとする上下関係で成り立っている．プリキュアを倒すための社内会議が行われるシーンもたびたび放映されている．

『HUG っと！プリキュア』の主な登場人物は表 1 の通りである[3]．第 1 話で主人公の野乃はなが新しい学校に転校し，そこで後のプリキュアとなる薬師寺さあや，輝木ほまれと出会う．野乃はなが 1 人で空を見上げていると，赤ちゃんが空から降ってきて「はぐたん」と名付けられる．はぐたんと一緒にやってきたハリハム・ハリーというハムスター[4] は，プリキュアとともにクライアス社と戦うのである．

プリキュアになった野乃はなは，敵と戦うために仲間を探し始め，やがて同級生である薬師寺さあやと輝木ほまれがプリキュアになる．また，愛崎えみるはもともとプリキュアに憧れており，「プリキュアになりたい」と願っている．そこに，クライアス社に所属していたアンドロイドのルールーがはなたちと接することで人間らしい感情を持ち始め，愛崎えみると心を通わせながら 2 人同時にプリキュアとなる．

はぐたんはまだ歩くことも話すこともできない乳児として登場し，「はぎゅー」という言葉が口癖である[5]．プリキュアたちはクライアス社と戦いながら，はぐたんを守り，協力してはぐたんを育てている．タイトルに HUG とあるように，はぐたんの世話が物語の 1 つの軸となっており，本シリーズの主要なテーマは育児といえる．また，プリキュアたちがそれぞれ自分の将来や目標とは何かを模索するエピソードがあり，ハリハム・ハリーが経営し洋服などを売る店，「ビューティ・ハリー」の手伝いをしたり，ウェイトレスや保育士などの仕事体験をする回もある．自分の目標や将来就きたい職業を探すこともシリーズを通したテーマとして設定されている．

3-3 プリキュアの変身，戦い方

表 2 は，プリキュアの変身と戦い方についてまとめたものである．5 人のプリキュアはそれぞれテーマとなるカラーがあり，プリハートとミライクリスタルというアイテムを使ってその色の衣装に変身する．変身が始まると体は光り輝き，髪は

表２ プリキュアの変身，戦い方

プリキュア	色	変身	戦い方
キュアエール	ピンク	・スマートフォンの形をしたプリハートというアイテムにミライクリスタルをセットして変身する． ・変身中は体が光り輝き，それぞれのテーマカラーの衣装に変身する．髪は伸び，ヘアアクセサリーや靴などが追加される． ・変身後にはそれぞれのプリキュアがローアングルで映し出される．	・攻撃の前半はパンチや蹴りなどの肉弾戦． ・後半ではメロディソード，ツインラブギターなどのアイテムを使った攻撃へと移行．
キュアアンジュ	青		
キュアエトワール	黄		
キュアアムール	紫		
キュアマシェリ	赤		

伸びてボリュームがアップし，ヘアアクセサリーや靴，ブーツなどが追加される．変身の最中は髪や足など身体の一部がクローズアップされる．顔がクローズアップされる時には，アイメイクやリップなどが加えられる．

戦い方に関しては，パンチや蹴りなどの肉弾戦が展開される一方で，敵をなかなか倒せないでいると，メロディソードやツインラブギターなどのアイテムを使って，個人技あるいは合体した技で攻撃を始める．毎回のエピソードでクライアス社の社員は人間のネガティブなパワーを使ってオシマイダー[6]を呼び寄せている．したがって，最終的には敵が傷ついて倒れるのではなく，オシマイダーを消し去りクライアス社に利用されていた人間を元の状態に戻すことによって戦いは終了となる．

3-4 男性の登場人物

本シリーズでは，主人公であるプリキュアたちに準じる形でいくつかのエピソードで男性が一定の役割で登場する．表３は，主人公のプリキュアたちに関わる形で複数回登場する男性の登場人物をまとめたものである[7]．

ハリハム・ハリーは，はぐたんとともに異なる世界からクライアス社に追われる形で，はなたちの元にやってきた[8]．ハリーは，既述のとおり「ビューティハリーショップ」という店舗を経営しながらプリキュアたちを支援している．必要に応じて人間の男性に変身しており，はぐたんの世話をしたり，抱っこ紐ではぐたんを抱えながら登場したりしている．

若宮アンリは，プリキュアの１人である輝木ほまれの幼馴染で，幼少期より共にフィギュアスケートを練習してきた．母親が日本人で，父親がロシア人であり，青い目は父親譲りと自ら説明している．金髪を顎の下あたりまで伸ばしており，やや長髪のスタイルをしている．

愛崎正人は，プリキュアの１人，愛崎えみるの兄である．愛崎家は裕福で城のような家に住んでいる．厳格な祖父に育てられ，正人はえみるも厳しく育てようと度々言動を注意している．

3-5 男性の登場人物とジェンダー規範の揺らぎ

これら３人の男性登場人物は，本シリーズの中で複数回登場し，ジェンダー規範に準ずる，あるいは対抗するような言動をしている．表４は，本シリーズの前半においてそうした言動がみられた第８話，15 話，19 話を取り上げ，３人の発言および行動を整理し，まとめたものである．

まず第８話では，フィギュアスケートの選手である輝木ほまれが不調によりジャンプがうまく跳べず，そのことを心配したアンリが，はなとさあやからほまれを引き離そうとする回である．アンリはビューティハリーショップで女性用のドレスを試着し満足そうにしているが，ハリハム・ハリーから「それ，レディースやで」と指摘される．

表３ 主要な男性の登場人物

名前	立場	
ハリハム・ハリー	ハムスター（妖精）	人間（20 歳前後の男性）に変身可能
若宮アンリ	ほまれの幼馴染	フィギュアスケートの選手
愛崎正人	えみるの兄	中学３年生

表４　男性登場人物によるジェンダー規範を揺るがす発言と行動

No.	タイトル	男性の登場人物	ジェンダー規範の揺らぎ
8	ほまれ脱退！？スケート王子が急接近！	若宮アンリ	女性用のドレスを試着する.「似合っていれば問題ない」と発言.
15	迷コンビ…？えみるとルールーのとある日	愛崎正人	「女の子は女の子らしく，ピアノやバイオリンの方が似合っていると思うよ」と言う正人に対し，ルールーが「なぜギターはダメなのですか」と反論する.
19	ワクワク！憧れのランウェイデビュー！？	愛崎正人	アンリに対して制服の着こなし方が女性みたいだと注意する.
			妹のえみるに対して,「女の子もヒーローになれる」というキャッチフレーズのファッションショーに,「女の子はヒーローにはなれない」と言い出演しないよう諭す.
		若宮アンリ	白いドレスを着てファッションショーに出演する.「なぜ男なのにドレスを着るのか」と責める愛崎正人に「自分のやりたいことをする」と反論する.
		ハリハム・ハリー	人間の姿で抱っこ紐のはぐたんを抱えている.
		若宮アンリ	敵に捕らえられ，プリキュアたちに救出される.「お姫様ポジションになっちゃってない？」と聞くアンリに，キュアエールが「男の子だってお姫様になれる」と答える.」
			オシマイダーの苦しみを理解し，ハグする.

それに対してアンリは,「似合っていれば問題ない」と言って取り合わない．主人公のはなは，そうしたアンリの姿勢に好意的な態度を示す[9].

次に第 15 話[10] は，プリキュアに憧れているえみるがルールーを家に招待する話である．えみるの部屋にはバイオリンやピアノがあるが,「本当に好きな楽器はギターだ」と告白し，ルールーの前で演奏する．その音を聞きつけた兄の正人がえみるの部屋へ行き,「女の子は女の子らしく，ピアノやバイオリンの方が似合っていると思うよ」と発言する．それに怒ったルールーが部屋から出て行った正人への不満を口にする場面がある．えみる自身は兄の正人に反抗することはできていないが，怒ってくれたルールーに対して感謝を述べるのである.

第 19 話は, アンリがえみるとルールーをファッションショーに出演するよう誘い，ショーの途中でオシマイダーに襲われるものの，えみるとルールーが初めて一緒にプリキュアに変身できる話である．まず，ファッションショーに出演する前の段階でアンリは，えみるの兄の正人から「女性みたいだ」と自身の制服姿を注意される．アンリは制服を着崩して着用していたのである．アンリは何も反論せずにその場を去るが,「なぜ何も言わないのか」と問いただす主人公のはなに対して「言ってもわからない人には言っても無駄だ」という趣旨の発言をする.

次に,「女の子もヒーローになれる」というキャッチフレーズのファッションショーに出演しようとしているえみるに対して，正人は「女の子はヒーローにはなれない」と言い，出演を辞退するよう諭すのである．このように，正人は伝統的な男性らしさ，女性らしさのジェンダー規範を強要する存在として提示されている．一方，アンリは男性でありながら「似合うから」という理由で自ら進んで女性用のドレスを着て「自分らしさ」を大事にし，ジェンダー規範を超越する存在として登場するのである.

その後，アンリやえみるに反論されてしまった正人はネガティブな感情を抱えているところをクライアス社の社員に捕らえられ，オシマイダーというモンスターを召喚するために利用されてしまう．オシマイダーとプリキュアが戦っている途中で，アンリがオシマイダーに捕まってしまうが，その時アンリは「ボク，お姫様ポジションになっちゃってない？」とプリキュアたちに問いかけ，キュアエール（はな）は「男の子だってお姫様になれる」と答えている.

こうした構成をみると，本シリーズは明らかに「女性は女性らしく」「男性は男性らしく」という

ジェンダー規範を超えようと試み，そうしてこそ自分らしさが獲得できるといったメッセージを提示していると考えられる．

また前節で述べたように，育児はプリキュアたちにとって重要な女性としての課題であるが，ハリハム・ハリーは度々人間の男性に変身し，抱っこ紐を使ってはぐたんを抱えたり，世話したりしている．女性の役割としてのケアやマザーリングを男性も共有するものとして示されているのである．

なお第19話では，えみるに対して「女らしさ」を強要していた正人が，第20話以降，ジェンダー規範を押し付けることなく，えみるにライブのチケットを渡すなどして応援するようになる．そして，アンリに対しても過去の非礼を謝罪し和解する．このように，敵対関係にある人物や敵を倒すというよりも，和解して良好な関係を構築していくことがプリキュアシリーズの1つの特徴でもある．ジェンダー規範に関しても敵対するのではなく，相互理解が可能であることを示していると考えられる．

4 結果と考察

前章でみてきたように，『HUGっと！プリキュア』は育児とプリキュアたちの成長がテーマの物語となっている．成長とは，プリキュアたち登場人物が自分らしさ，自分とは何かを考え，将来の職業，進むべき道などを自分で選択していく過程として提示されている．その中で，はぐたんの育児も同時進行しており，はぐたん自身もつかまり立ちや発話できるようになり順調に発育していく．このような母親の役割，過去のプリキュアシリーズでも示されていたケアとマザーリングは本シリーズにおいても女性の重要な役割として再提示されていることが確認できた．

そしてプリキュアの変身シーンでは，身体の一部がクローズアップされ，衣装の変更やメイクアップが施される．変身，つまり衣装や髪形，化粧によってかわいく，きれいになり，そうしたメイクアップ，ドレスアップが女性にとってのパワーの増大を示していることは先行研究で指摘されたとおりである．

本シリーズでは過去のプリキュアシリーズと同様に，ケアとマザーリングが女性の役割であり，なおかつメイクアップやドレスアップが女性のパワーとして提示されている．その一方で，男性像はこれまでと異なる表象のされ方をしている．アンリは男性でありながら女性の服を好んで着用し，「自分らしければよい」とジェンダーレスのような存在として提示されている．また，正人は「男らしさ」「女らしさ」を強調したジェンダー規範に準じて行動し，妹にもそうした生き方を強要する．正人のそうした考え方は，アンリやプリキュアたちの影響を受けて変化し，次第にえみるの趣味や行動を認め，アンリに対しても柔軟な姿勢を示すようになる．さらに，ハリハム・ハリーは成人男性に度々変身し，はぐたんのケアとマザーリングをプリキュアたちと協同で行っている．

これらの男性像はジェンダー規範の変化として受け止められるだろうか．愛崎正人は当初，「男の子は男らしく」「女の子は女らしく」という伝統的なジェンダー規範に従う存在として提示される．しかし，プリキュアやアンリ，えみるたちの反論や態度によって考え方を改め，「自分らしく」あることを望もうとする．このシリーズでは「自分らしさ」が重視され，ジェンダー規範を否定することが「自分らしさ」を得るための1つの手段として示されている．アンリもまた「自分らしく」あるために女性用のドレスを堂々と着こなすのである．しかし，その一方で従来と同様にプリキュアたちにとってはドレスアップ，メイクアップがパワーの増大を意味している．またプリキュアたちにとってマザーリングは女性のジェンダー規範として明確に示されており，ハリハム・ハリーも育児に参加するものの，タイトルに「HUGっと！」とあるように育児自体が本シリーズの主要テーマとして設定されていることに変わりはない．そこに男性が参加したとしても女性の責任としては逃れられないのである．

以上から，男性の登場人物たちにより男性のジェンダー規範に一定の変化がみられるものの，それは女性のジェンダー規範を変更させるには至ってないように見える．むしろ男性が育児に参

加したとしても，マザーリングは女性の役割として強固に存在していることが確認される．それと同時に，男性の衣服に対する考え方が変わったとしても，プリキュアたちがドレスアップやメイクアップによってパワーを増大させていることは変わらない．したがって，男性のジェンダー規範に一定の変化があったとしても，女性と「美」は分かちがたく結びついていることが再確認されたとも言える．

既述した通り子ども向けアニメ番組は，テレビ視聴のみでなく雑誌の掲載やステージショーの開催，グッズの販売などさまざまなメディアを通して利用されている. 近年, 未就学児のインターネット動画の視聴も増えており，子どものメディア環境を考慮したより多角的な分析が必要だと言えるだろう．加えて，本稿で述べたようなジェンダー規範について子どもたちが果たしてどこまで理解しているのか，また家庭内で共に視聴している親世代の理解や読みも，子どものメディア環境を把握するうえで欠かせない要素である．こうした分析調査が今後の課題として挙げられる．

注

1） 例えば『HUG っと！プリキュア』の新シリーズが開始した 2018 年 2 月 4 日（日）の放送回（関東地区）では第 8 位である．
2） 2018 年 2 月より放映開始．毎週日曜日，8 時 30 分より ABC テレビ・テレビ朝日系列で放送されている 30 分のアニメ番組である．
3） 2018 年 9 月放送時点による．
4） プリキュアシリーズではプリキュアを助ける役目として小動物が設定されていることが多い．『HUG っと！プリキュア』のハリハム・ハリーは，外見はハムスターであるが，はぐたんとともに異世界からやってきた妖精と説明されている．人間の男性に変身可能で，関西弁を話す．
5） プリキュアたちが変身するときにも「はぎゅー」という言葉を発しており，1 つのキーワードとなっている．
6） プリキュアの敵となるキャラクターである．
7） 敵であるクライアス社の社員は除く．
8） ハリハム・ハリーは過去にクライアス社の社員であったと別のエピソードで明かされる．
9） アンリは幼馴染であるほまれに，はなたちとの付き合いをやめ，スケートに専念するよう説得するが，はなたちがほまれにとって重要な存在であると理解し，第 8 話の終盤にははなたちと和解する．
10） この時点ではまだ，えみるとルールーはプリキュアに変身できていない．

引用文献

星暁子・渡辺洋子（2017）．幼児のテレビ視聴と録画番組・DVD の利用状況：2017 年 6 月「幼児視聴率調査」から　放送研究と調査，67(11)，28–41.

斎藤美奈子（2001）．紅一点論：アニメ・特撮・伝記のヒロイン像，筑摩書房.

須川亜紀子（2003）．少女と魔法：ガールヒーローはいかに受容されたか，NTT 出版.

ビデオリサーチ社「週間高世帯視聴率番組」https://www.videor.co.jp/tvrating/（2018 年 9 月 25 日閲覧）.

若桑みどり（2003）．お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門，筑摩書房.

（2018. 9. 26 受稿，2018. 10. 31 受理）